

スーパー業界の流通BMS導入事例紹介



商品・設備・接客・サービス。
そのすべてにおいて安全・安心、
高品質を追求し、
「ええもん安い」を提供します。

2008年10月23日
イズミヤ株式会社
情報技術部 部長
上山 善弘

【目次】

- I. 会社概要
- II. 流通BMSの導入・背景・経緯
- III. 導入のねらい
- IV. 平成19年度共同実証
- V. イズミヤの効果
- VI. 今後の展開

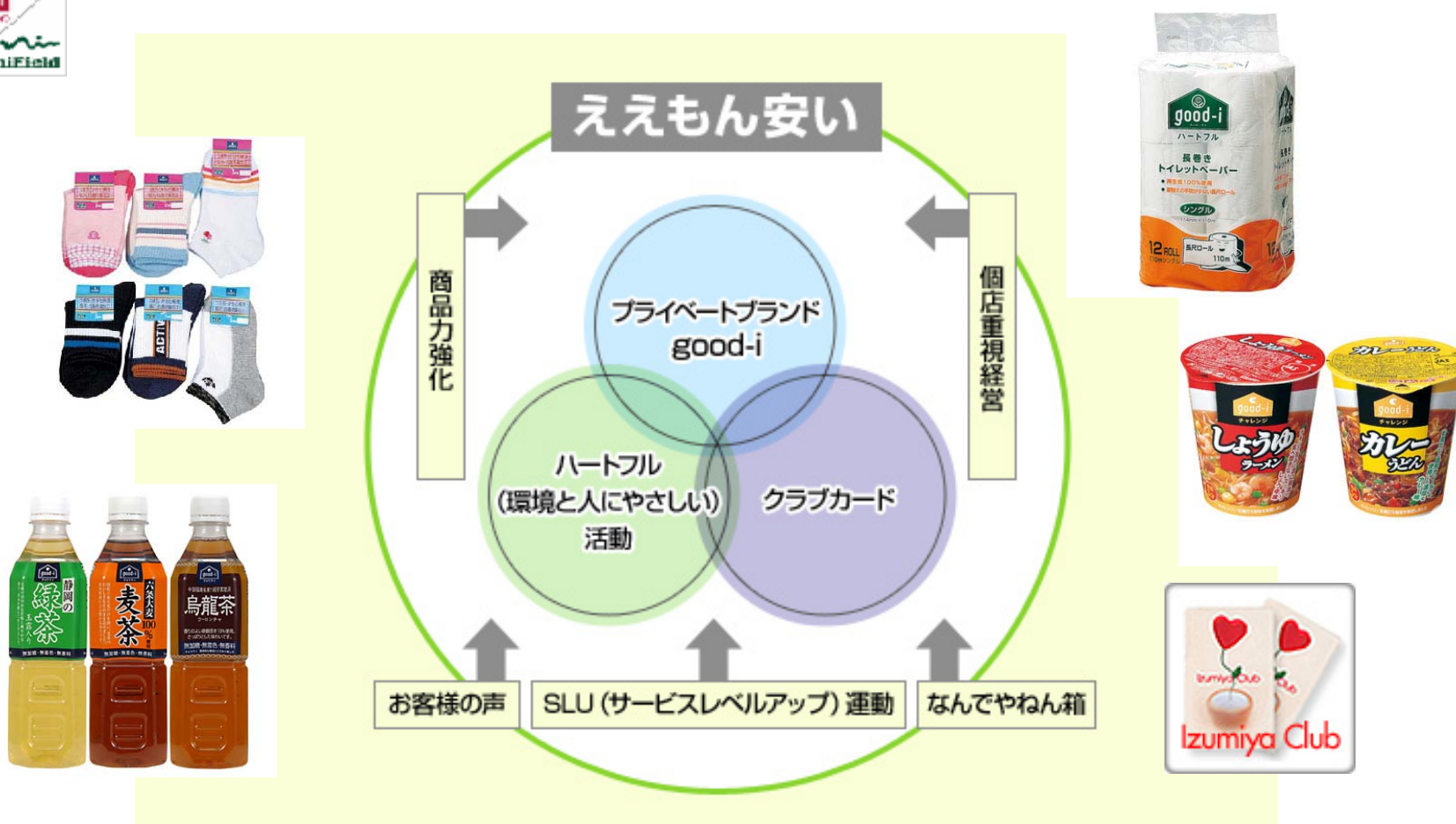
I. 会社概要



会社概要

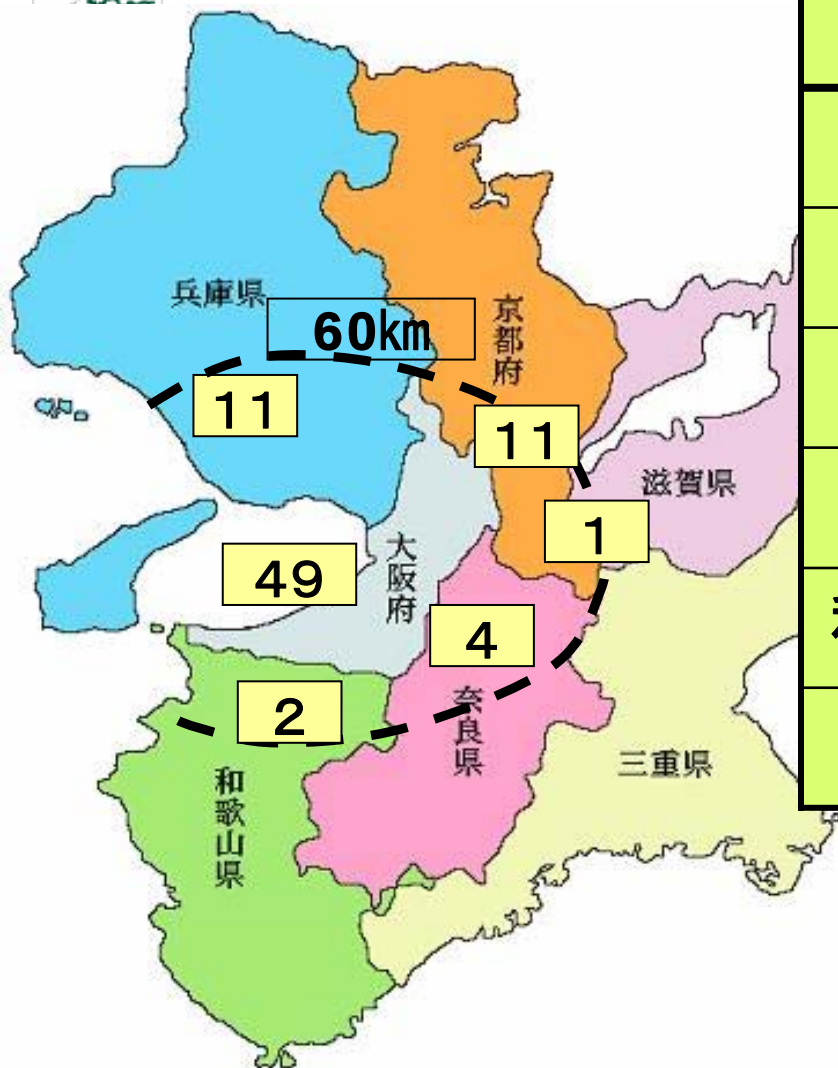
社 名	イズミヤ株式会社
本部所在地	大阪市西成区花園南1丁目4番4号
事業内容	衣料品、食料品、電器、家具、レジャー用品、 日用雑貨等の総合小売業のチェーンストア
創 業	大正10年5月
設 立	昭和27年4月
資本金	390億円66百万円(平成20年2月末現在)
株式市場	大阪証券取引所、東京証券取引所
代表取締役	林 紀男
売上高(単体)	3,398億円(平成19年度実績)
店舗数	86店舗(平成20年9月末現在) 大阪(49)、兵庫(11)、和歌山(2)、京都(11)、奈良(4)、滋賀(1) 岐阜(1)、岡山(1)、宮崎(1)、東京(1)、茨城(1)、千葉(2)、栃木(1)
社員数	2455名 (平成20年2月末現在)
決算月	2月(年1回)

経営理念



地域のお客様が、健康で楽しく、心豊かな生活をおくれるように
安全で安心な商品とサービスの提供を通して
“ええもん安い”の商道を追求し、社会に貢献します

店舗展開 ～関西深掘～



府県名	店舗数
大阪	49
京都	11
兵庫	11
奈良	4
和歌山	2
滋賀	1

展開地区名	店舗数
関西地区	78
関東地区	5
中部地区	1
中国地区	1
九州地区	1
計	86

(関東地区)

- ・牛久店 茨城県牛久市
- ・八千代店 千葉県八千代市
- ・検見川浜店 千葉市美浜区
- ・小山店 栃木県小山市
- ・板橋店 東京都板橋区



店舗形態

SuC
(スーパーセンター)
(6店舗)

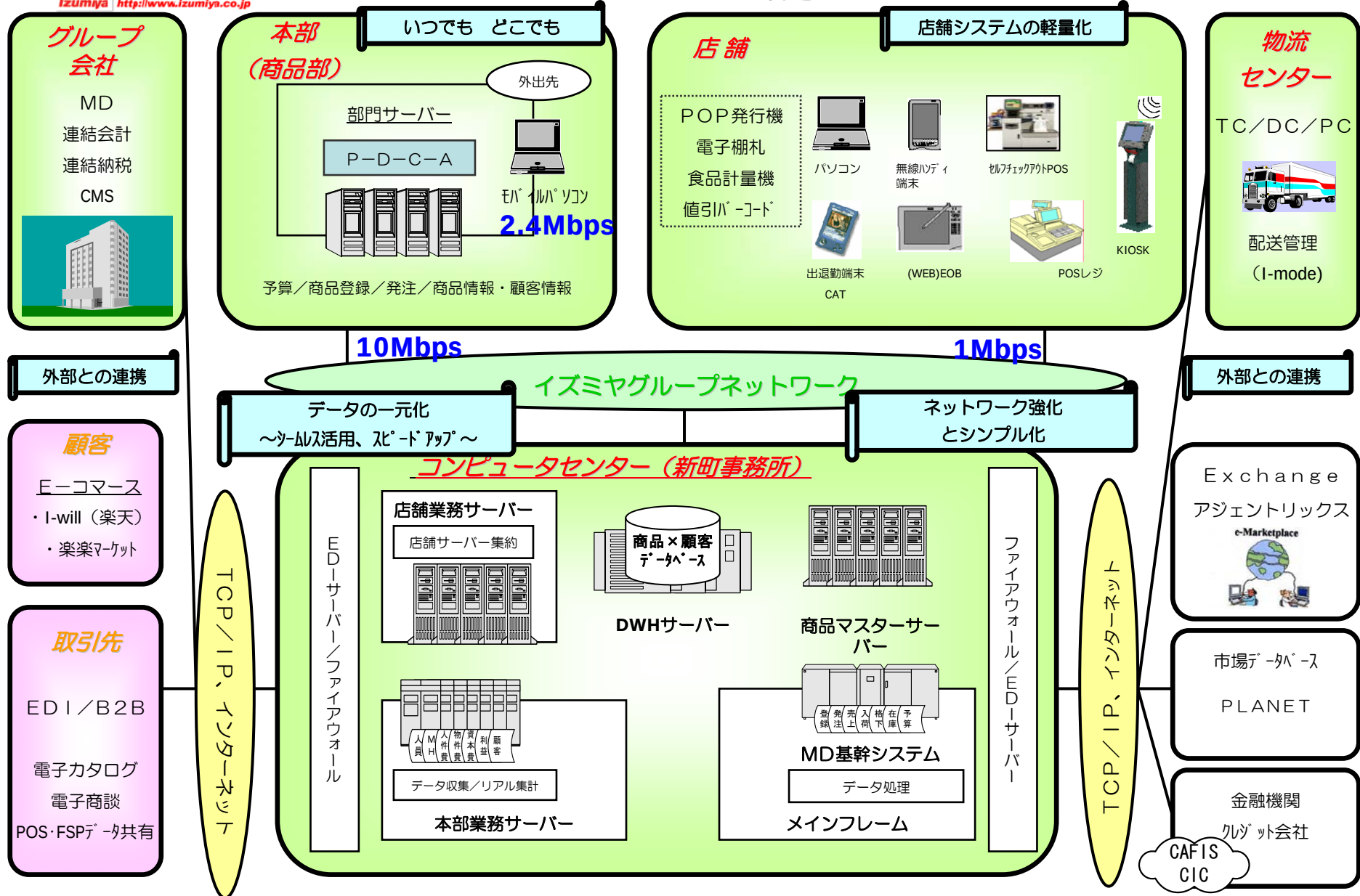


GMS
(53店舗)

SM
(27店舗)

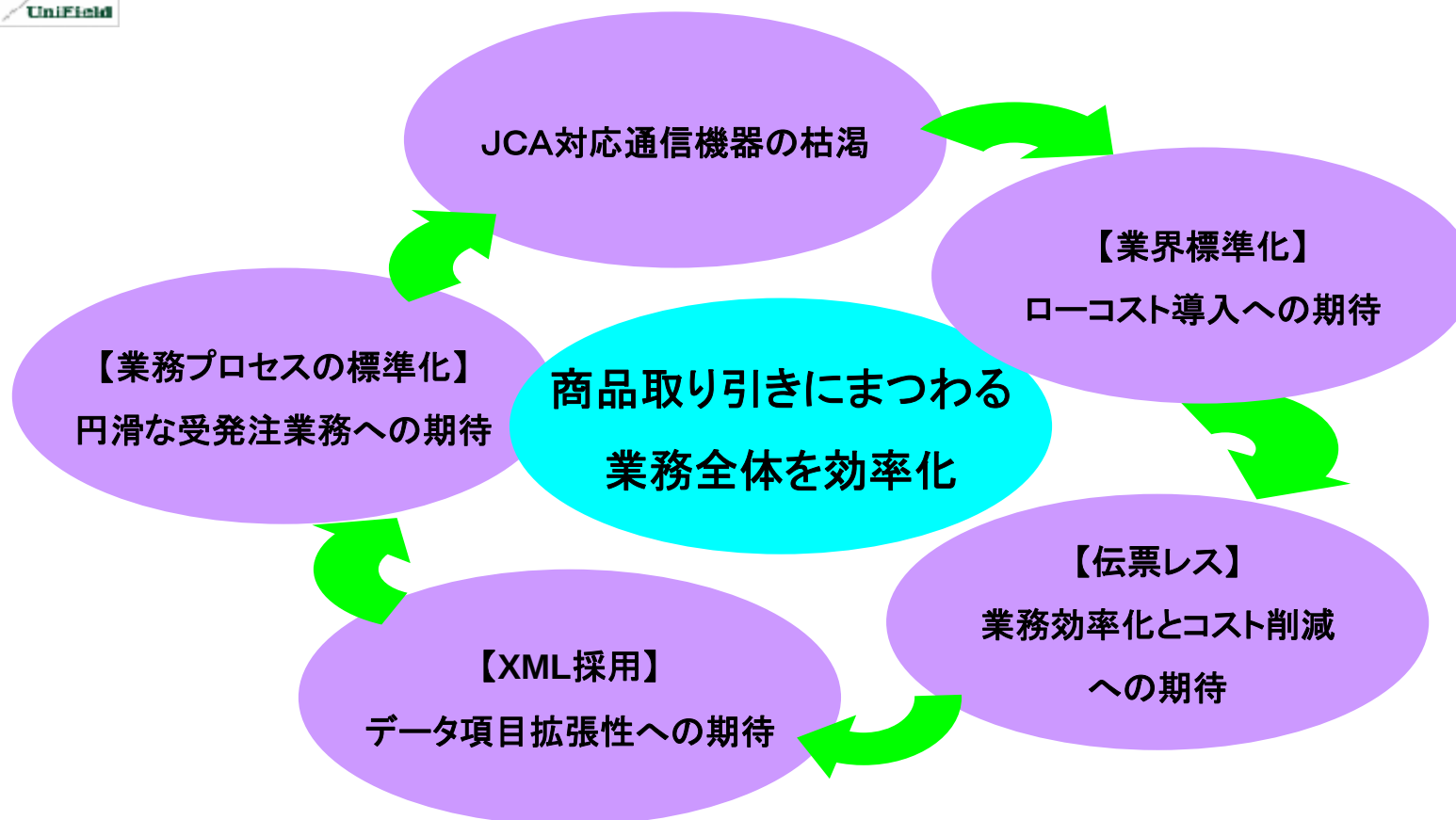


システム構成



Ⅱ. 流通BMSの導入・背景・経緯

BMS導入の背景



業界全体の業務合理化、生産性向上、
伝票や情報交換に関わるコストの削減への取り組み

BMS導入の経緯

イズミヤのEDIへの取組

- ・1987年 生鮮双方向オンライン稼動
- ・1998年 特定お取引先様との直EDI(伝票レス)開始
- ・2002年 ASN(事前出荷明細)と伝票レス対応の新センター稼動(EDI比率81%)

イズミヤの流通BMSへの取組

- ・2005年 イズミヤは本格的に取組みに参加
日本チェーンストア協会、日本スーパーマーケット協会とともに標準化作り
- ・2006年 経済産業省事業としてグロサリ共同実証実施
イズミヤは参加せず(イズミヤとEDIセンターともに準備期間)
- ・2007年 アパレルと生鮮で共同実証
ビジネスモデルとメッセージはグロサリが基本だが特性部分を追加
イズミヤはアパレルで共同実証に参加し、2008年より本番稼動
- ・2008年 3カ年の経済産業省事業の最終年度
イズミヤでは流通BMS導入範囲の拡大

Ⅲ. 導入のねらい

BMS導入の狙いー通信時間の削減

受発注オンライン状況 (IDC利用のASP社数) * 弊社マスター登録数	IDC	A社	その他+直接続
	取引先社数	850社	116社
	接続拠点数	2015社	293社

A社経由の接続状況 * 730社実績より	接続手順	JCA手順	TCP/IP	WEB-EDI+その他
	取引社数	440社	40社	250社
	比率	60%	6%	34%

受信時間数	受信時間数	1時間以上	59分～30分	29分～10分	9分以下
	取引社数	2社	6社	54社	***
	接続手順	JCA手順			TCP/IP/JCA手順

1分～6分以内で受信完了

通信時間が削減される事でお取引先様の出荷業務が軽減できる

BMS導入の狙いー伝票レスの効果

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業

●小売 カテゴリ別導入効果(4社平均)

【グロサリ】

手書き伝票	178,033枚/月
システム発注分	1,419,294枚/月
伝票レス伝票	1,172,965枚/月
伝票レス比率	73.3%

【生鮮】

手書き伝票	532,091枚/月
システム発注分	1,765,319枚/月
伝票レス伝票	1,643,574枚/月
伝票レス比率	63.8%

【アパレル】

手書き伝票	90,306枚/月
システム発注分	1,466,571枚/月
伝票レス伝票	1,075,253枚/月
伝票レス比率	72.9%

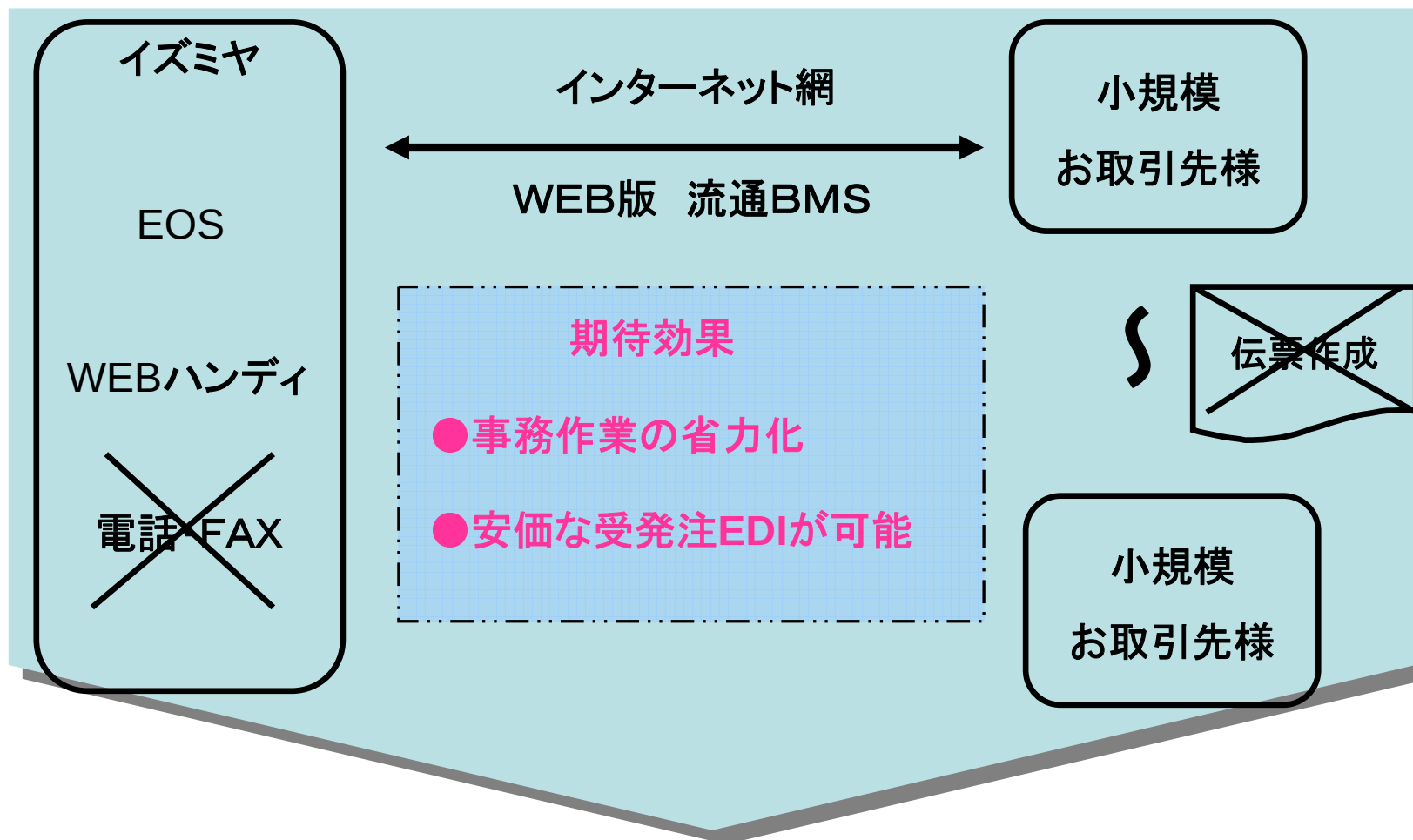
小売メリット ⇒ 処理費用(*）、運搬、保管のコスト削減

卸メリット ⇒ 伝票代、処理費用(*）、伝票印字、ハード

プログラム開発のコスト削減

* 処理費用とは、パンチ代やその他人件費、伝票の関わる費用

BMS導入の狙いー中小企業への拡大



業務プロセスの統一・事務経費の削減・検品精度の向上

BMS導入のねらい

通信時間の短縮

お取引先様の出荷業務の軽減
高速・安価なインターネット網

伝票レスの拡大

伝票コストの削減

標準化採用による円滑な受発注業務

国内標準化とグローバル標準への準拠
システムコストの削減



流通コスト削減



商品原価の低減



お客様へより安く商品を提供！

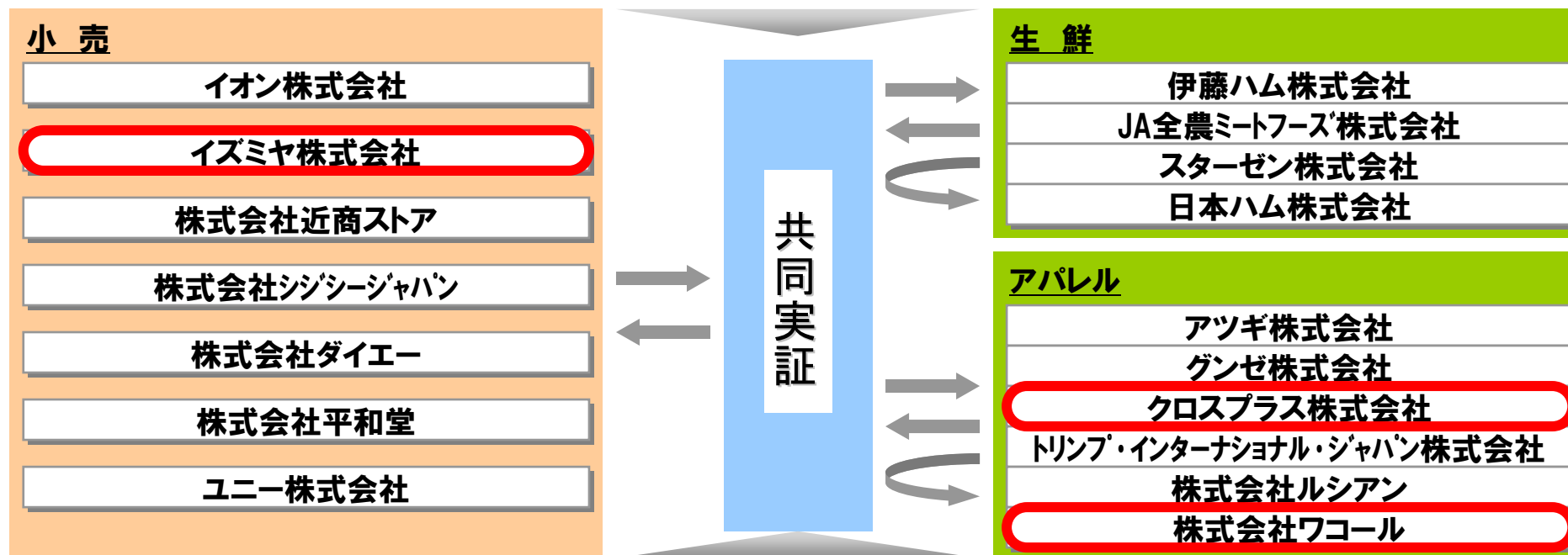
IV. 平成19年度共同実証

平成19年度共同実証（参加企業）

共同実証の 目的

1. 平成19年度策定のメッセージ・スキーマの精度向上
2. 流通ビジネスメッセージ標準の商材拡大検証
3. 普及・拡大に向けたインフラ課題解決

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業



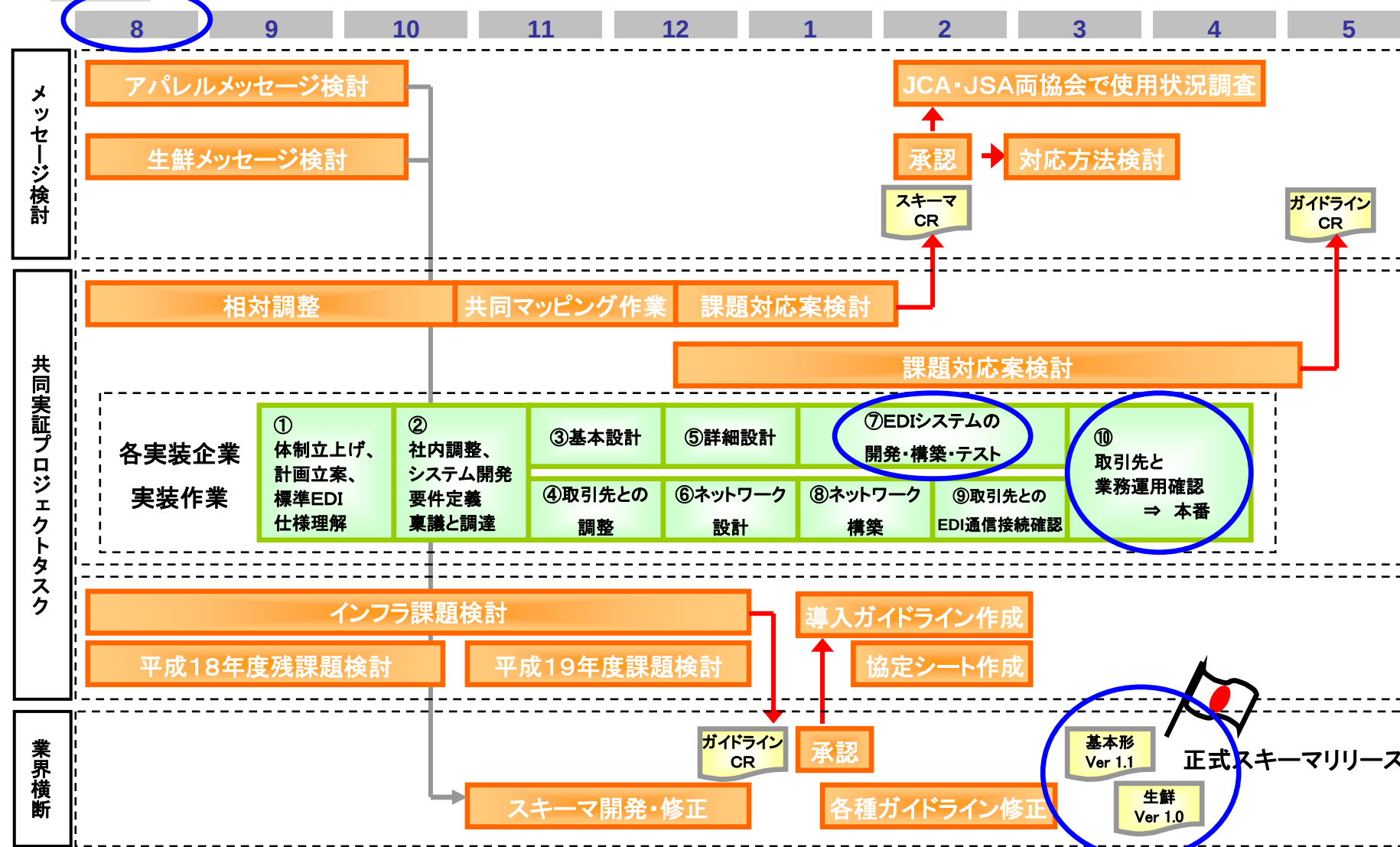
共同実証の 目的

	《アパレル》	《生鮮》
商品カテゴリ	衣料品	食肉・青果・水産物
業務	6業務+値札	6業務+集計表作成データ
メッセージ・スキーマ	基本形 Ver1.1	生鮮 Ver1.0
接続形態	N対N(小売対卸)マルチベンダ環境	N対N(小売対卸)マルチベンダ環境
プロトコル	ebXML MS JX手順 AS2	ebXML MS JX手順 AS2

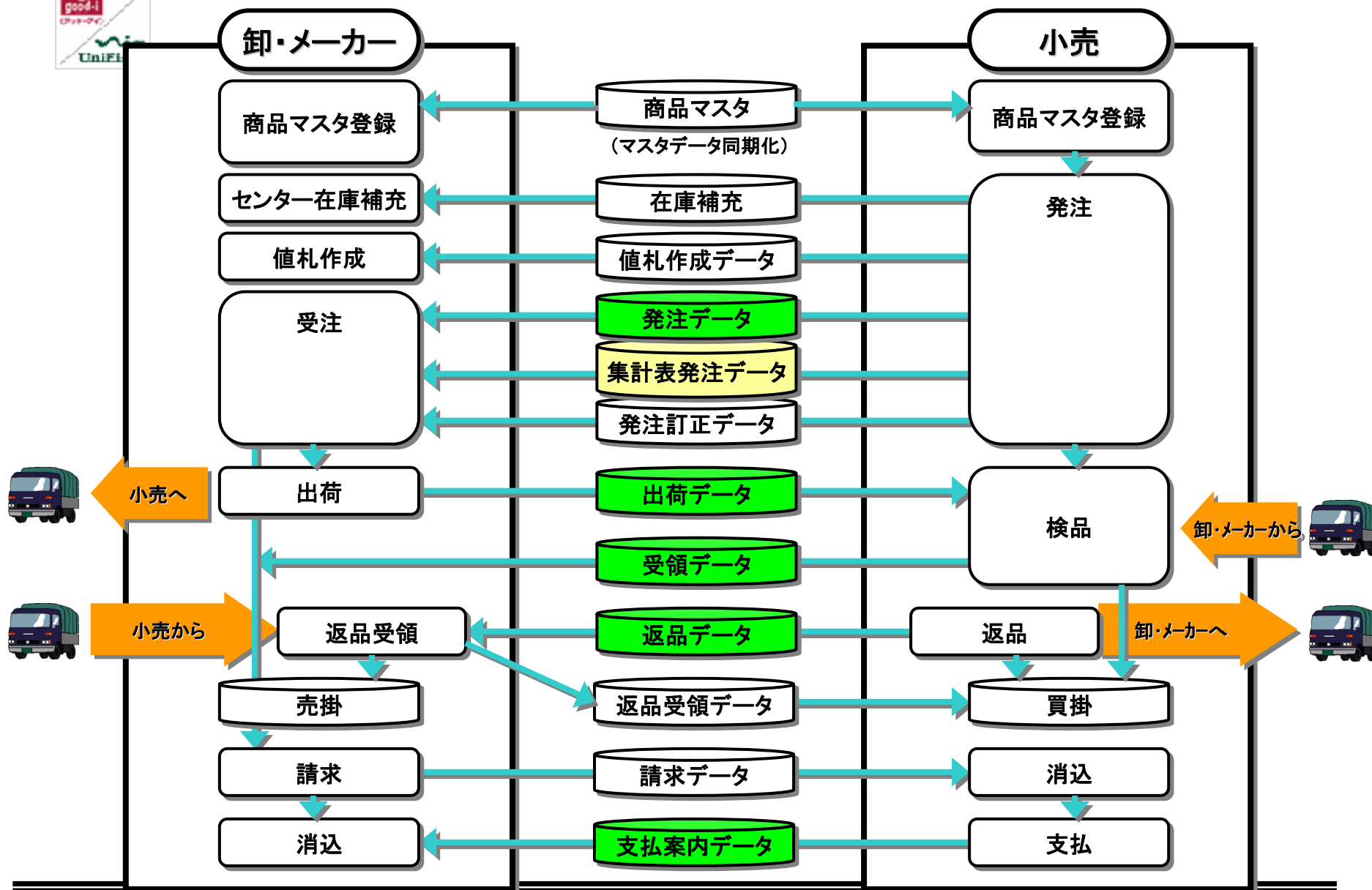
●イズミヤの状況 2008.5.6より㈱ワコール様と次世代EDI(流通BMS)本番稼動。クロスプラス様は実験のみ。

共同実証全体スケジュール

経済産業省 平成19年度
流通システム標準化事業



イズミヤ業務プロセス



イズミヤ

店舗



本部



新町データセンタ



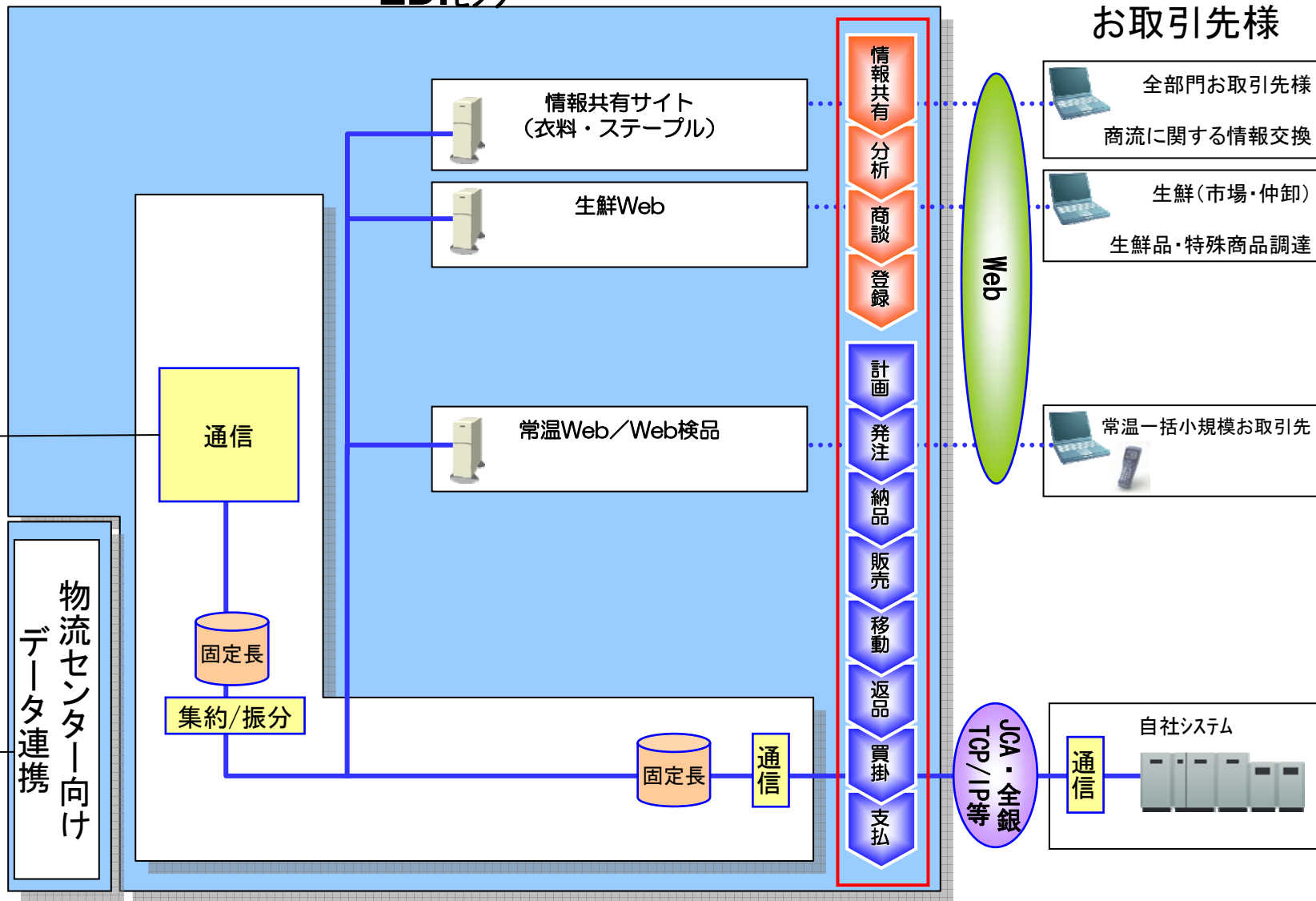
物流センター
(大阪・南港)



物流センター向け
データ連携

システム概要 (従来)

EDIセンタ-



お取引先様

全部門お取引先様

商流に関する情報交換

生鮮(市場・仲卸)

生鮮品・特殊商品調達

常温一括小規模お取引先

自社システム

イズミヤ

店舗



本部



新町データセンタ



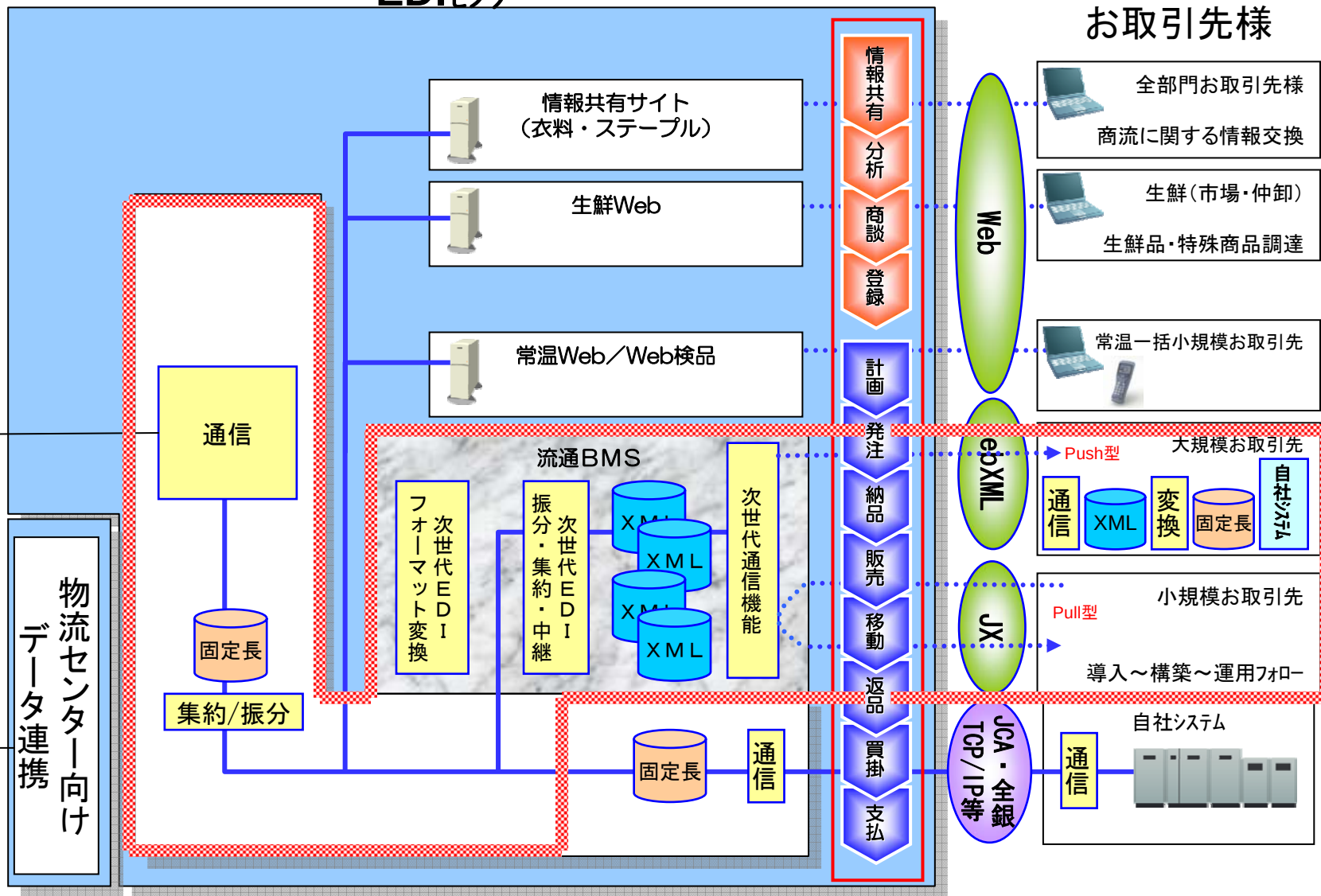
物流センター
(大阪・南港)



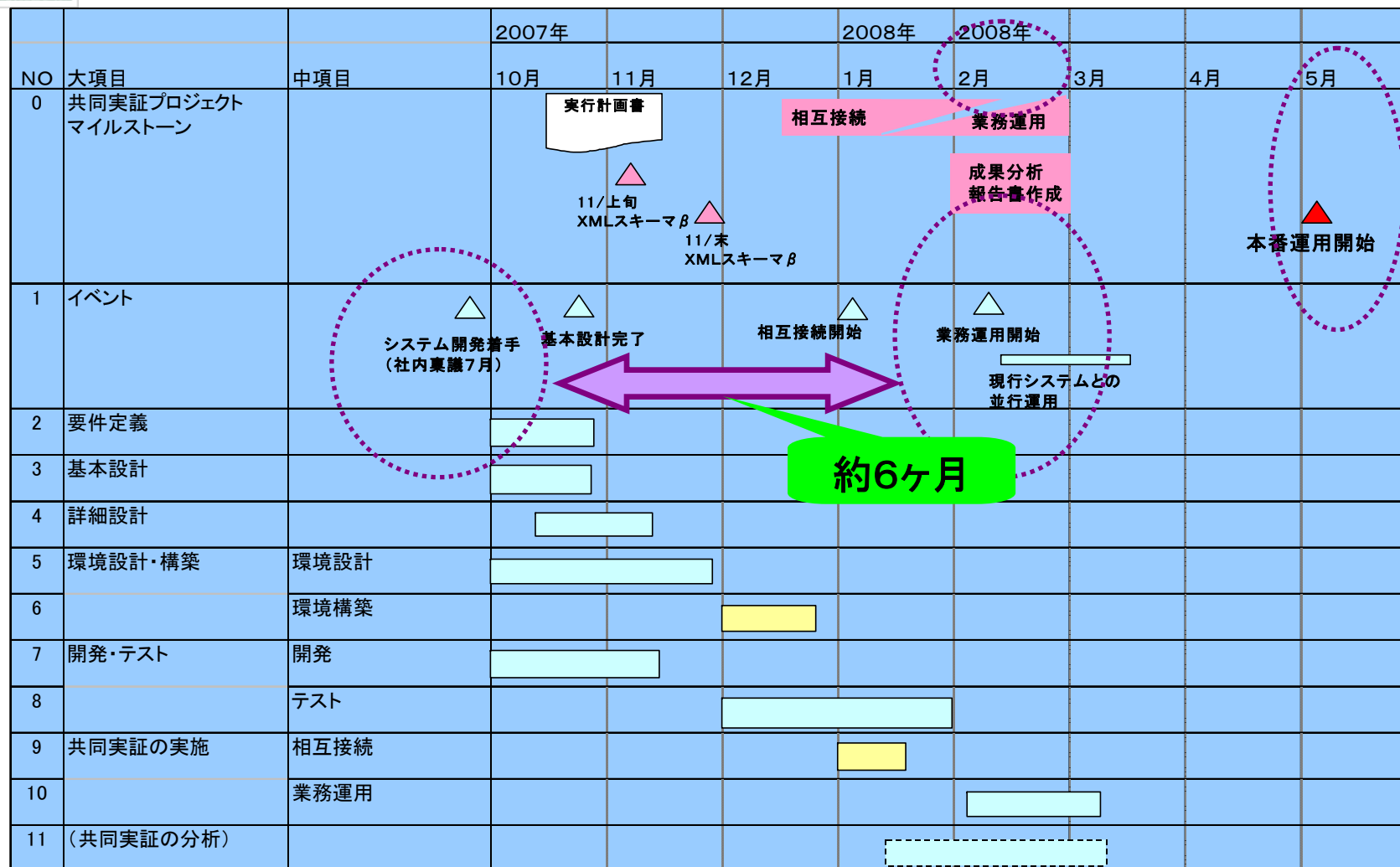
物流センター向け
データ連携

システム概要 (今回)

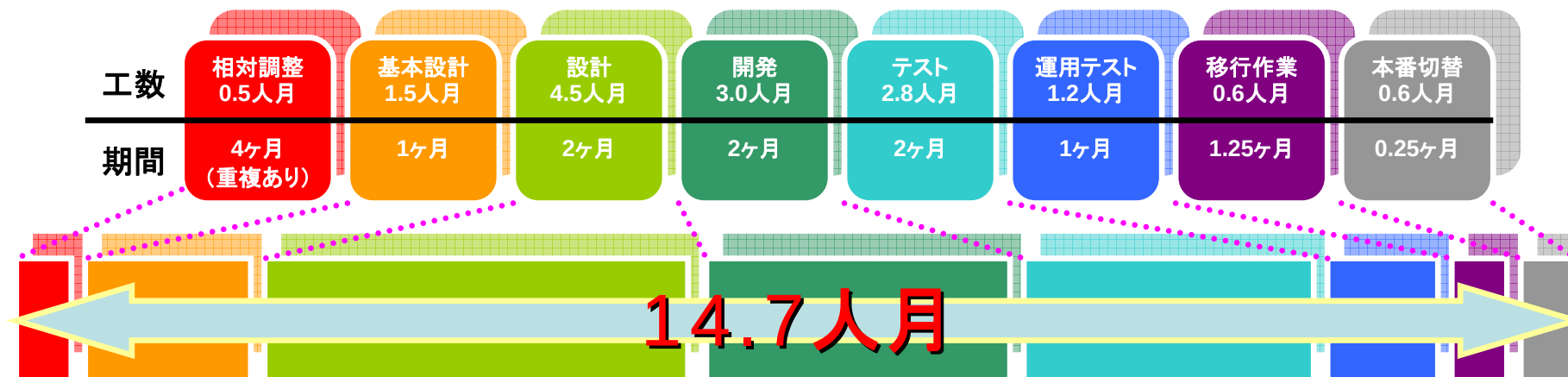
EDIセンター



イズミヤ開発スケジュール

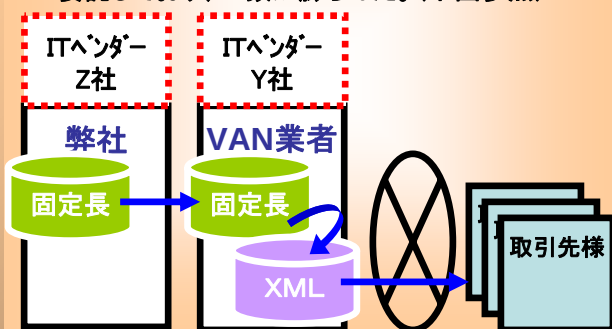


◆流通BMSの導入工程において苦労した点、工夫した点



●工数がかかった理由＝
流通BMSを実装するために初期投資が必要

流通BMS導入のため、弊社側とVANセンター側のシステム開発を、それぞれ別のソフト会社に委託しており、工数が膨らんだ。(下図参照)



＜設計、開発＞工程では、取引先様での出荷(梱包紐付け有り)データ作成に苦労した。既存出荷データにあって流通BMSに存在しない項目(納品時間等)があり、出荷データの設計に手間取った。更に、取引先様にて出荷データを流通BMS(XMLデータ)で作成するのに、システム開発に手間取った。

イズミヤの感想

●インターネット接続には専門要員が必要
取引先様がサーバ型を選択されたが、インターネット接続にかなり苦労されており、サーバ型を選択する場合には、流通BMSを熟知したシステム開発要員が必要と感じている。

参考・納品時刻

共同実証での苦労

既存出荷データにあって流通BMSに存在しない項目（納品時刻）
出荷データの設計に手間取った



イズミヤの判断

既存出荷データにある「納品時刻」は弊社の現行EDIシステムには必須
「納品時刻」がなければ、弊社での今後の流通BMS拡大は困難

CR(チェンジ・リクエスト)

平成19年度共同実証としてCR(項目追加)を行う
商材拡大WGで検討⇒承認 メッセージメンテナンス部会で決議へ

Ver1. 2へ反映

平成19年度の共同実証評価結果は・・・

平成18年度の共同実証で得られた評価

さらに、平成19年度の共同実証で得られた評価

メッセージ精度の確保

- ◆ 共同マッピング作業にて、項目の充足度を確認できた
- ◆ 複数商品カテゴリ（グロサリー、アパレル、生鮮）での共同実証を通して、メッセージの有効性を確認した

インフラ課題の解決

- ◆ 明確になっていなかったインフラ面での課題は、ルール決めや推奨案を策定することで解決した
- ◆ 検討結果は各種ガイドラインや流通BMS協定シートに反映させた
- ◆ 証明書運用などは、課題事項が明確化され、継続検討の予定

商材拡大への手応え

- ◆ 複数カテゴリでの共同実証を通して、大きな負担もなく商材拡大が可能であることを確認した

流通BMSの普及拡大へ大きな確信を得られた

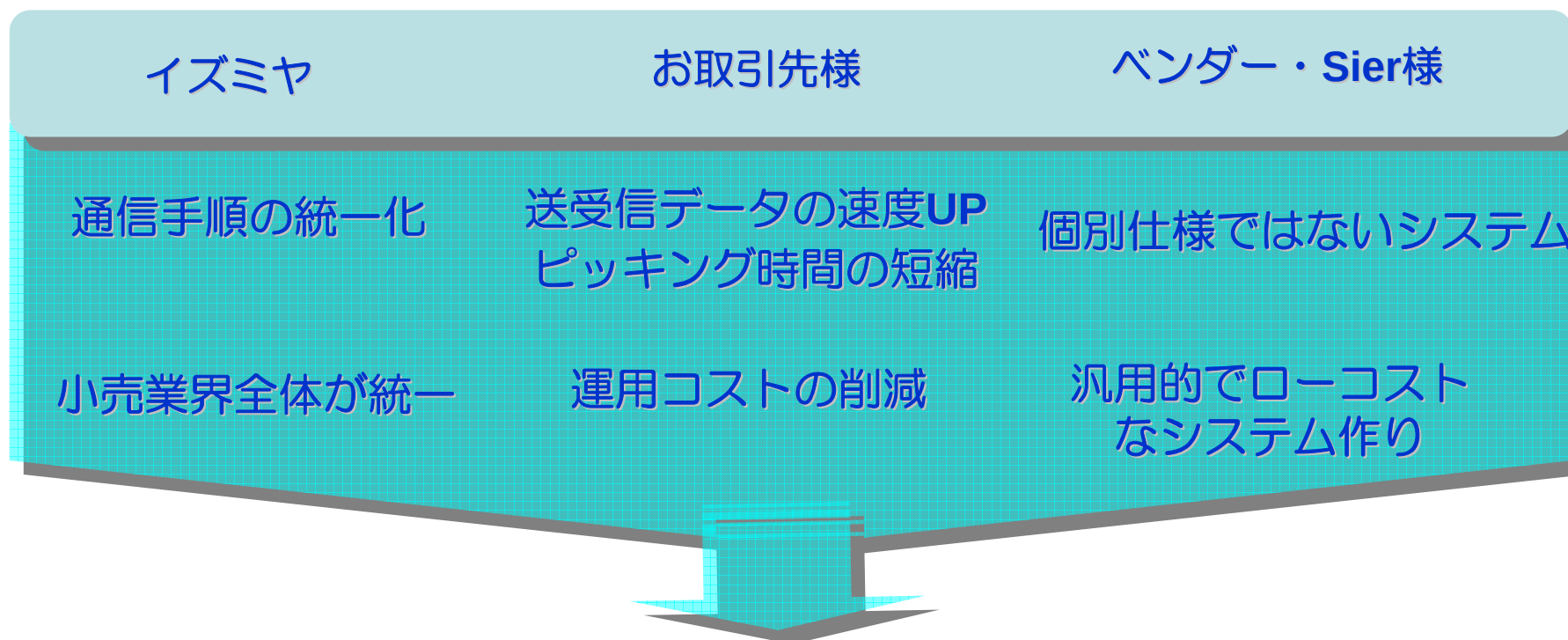
メッセージ 精度	メッセージ／プロセスの適合性	商材拡大時にも、Ver1.0の基本プロセスが適用できた
	新規メッセージの適合性	一部、チェンジリクエストで対応。それ以外は、メッセージ項目に過不足はなく、業務に適合することが実証された
インフラ 課題	導入サポート	各種ガイドラインが整備されてきたことで、実装時の負荷は低減されている
商材拡大	商材拡大時の負荷	初期導入時に比べ、商材の拡大時は、期間、工数とも低減できた (例：H18年度14.9人月⇒H19年度5.1人月)
	EOS比率	生鮮においてはEOS比率が向上し、業務効率の改善が見込まれる (例：流通BMSに完全移行すれば 0%⇒80%に向上)

- ◆流通BMS Ver1.0の精度が高いことが証明された
- ◆商材拡大時の導入負荷は大幅に軽減できることが実証された

⇒ 普及拡大に向けた展開ができる！

V. イズミヤの効果

イズミヤの期待



業務プロセス・メッセージが標準化される事で
『業界全体の業務合理化、生産性向上、伝票や情報交換に
関わるコスト削減』が可能になる

受け入れ環境の整備

今年度 生鮮部門に取組み予定

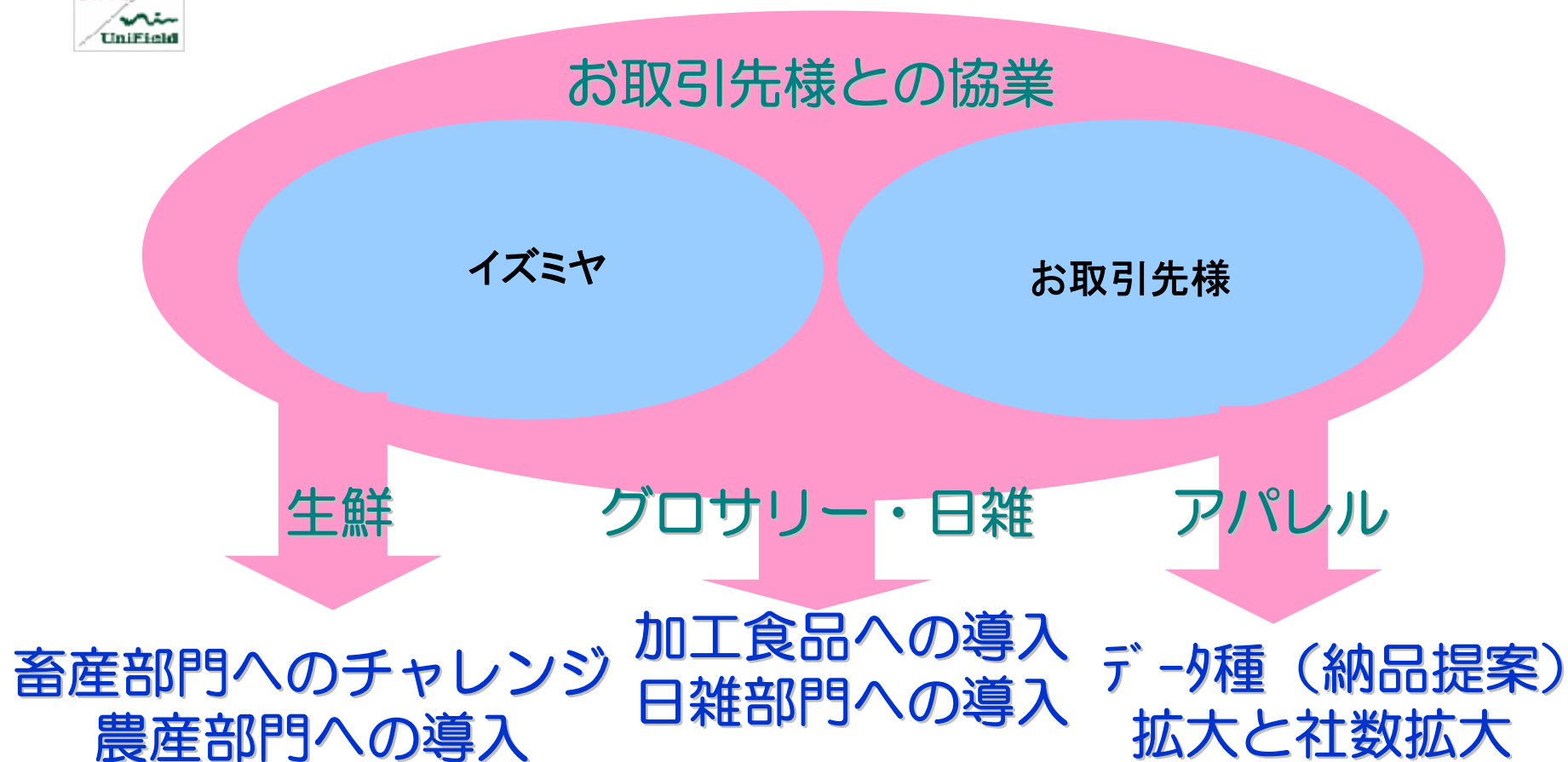


	衣料・住関 加工食品	生鮮	社数(法人別)	対象比率
EDIセンターA	昨年度対応済	本年度対応予定	834	88%
EDIセンターB	未対応	未対応	111	12%

イズミヤとオンライン取り引きを実施して頂いている
お取引先様、約88%のカバーが可能

VI. 今後の展開

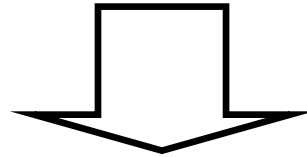
今後の取組み予定



相互にメリットを享受し協業強化へ

最後に

業務プロセス、メッセージが標準化され、
業界全体の業務効率化、生産性向上へ



“ひとつ入れれば皆につながる”

地域のお客様が、健康で楽しく、心豊かな生活をおくれるように
安全で安心な商品とサービスの提供を通して
“ええもん安い”の商道を追求し、社会に貢献します

ご静聴有難うございました